

幼稚園に於ける齒科衛生施設

日本大學幼稚園長 山田 伸子

今回の大會に於きまして『幼稚園に於ける齒科衛生施設』に就ての宿題を御報告申し上げますことは、誠に光榮の至りに存じます。たゞ淺學非才に加ふるに場所の不馴れも、時間の關係から十分意を盡し得ないこと、存じますが、九年間實施してまゐりました事に就て、幾分なりとも御參考に供するところが出來ますならば幸ひも存じ、事實そのまゝの經過を述べさせて頂きます。

便宜上、一動機、二設備、三訓練、四實施、五經過、六希望の六項に分けました。

一、動機

私は保育界に身を投じてから二十五、六年になります。が、日常如何に幼稚園に衛生施設の必要であるかを痛感させられてゐました。それは申すまでもなく、誠に危険な幼児期の者ばかりの集りで御座いますから、一人傳染性の病氣が始まれば、忽ち蔓延いたします。或る年などは百日咳に、全員の半分も罹患したことがあり、父兄におかれては極度の不安から幼稚園をさへ、うきんするほごで御座いま

した。かうした困難なる事實と共に、もう一つ食事のたびによく齒痛を訴へられることでした。私はかゝるいろいろの實際上の經驗から、幼稚園にはきうしても特別に衛生施設が必要であること、就中齒科衛生施設が此の時代に缺くべからざることを痛感いたしましたので御座います。それと同時に保育者が醫者であつたらきんなに理想かと思ひました。しかしそれは考へさせられたのみで、その當時の幼稚園にては何等施す術もありませんでしたので、食後の齒痛の場合には自分が小さい時、ばあやがよくしてくれたいやうに鹽水にて含嗽なごさせながら、さうかしてこれ等に對する良き設備なご法なごを得たいものだと思ひました。そして多くの御母様方に眞實の幼稚園を捧げたいと思ひましたが、さてそれが實現には何等の良き方法も與へられず、日々の仕事に追はれ、いつしか歳月は流れてゆきますうちに恰度今から十年前、即ち昭和二年の十一月に只今の日本大學幼稚園が設立されました、幸ひ私が責任を持つ様になりましたので、始めて此の時こそ日大附屬の齒科學校に

かけつけ、その當時よりの只今の科長佐藤先生に御目にかゝり、かねての宿望を申げましたころ、手を拍つてよいところに氣がついたとおつしやつて下さつて、その當時の兒童科主任水間先生を御派遣下され、あれやこれやを、設備に取りかゝりましたのは昭和三年の三月頃でありました。

二、設備

扱て漸くにしてその機運に達しましたものゝ、設備萬端は中々容易のものでありませんでしたが、本校の右先生方や、綠川先生（その當時のライオン衛生部長でした）なぎの御盡力で治療に必要な一通りの設備が出来ました。診療室は玄關の應接室と一緒にしてあります。これは餘談ですが、つひ三四年前には是非とも電氣エンヂンにしたいと思ひましたが經費がありませんので、齒科の器械屋に交渉して月賦にして貰ひ、やつ設備へるこゝが出来ました。それから齒みがきを教へるために、洗口場を作りましたが、これもその當時は水道がありませんでしたので、モーターで洗口場へ送入されるやうにして、齒ブラシやウガヒコップかけなぎは、全く素人の手製で、たゞ齒ブラシがよく乾燥されるやうな方法に作りしました。全くお粗末なものです。寫眞の通りかうした設備は漸くにして出来ましたものゝ、こゝに第一の難問題に當りましたこゝは、幼兒に對する實施

方法でありました。

三、訓練

その當時のお母様方には「さうせ抜けかはる齒ですから、新らしくなつてから大切にしませう」なぎとおつしやる方が大分にありまして、従つて子供たちにも齒さへば痛い、お醫者様さへば恐い、もつともお母様方の中には、泣くにお醫者様の許へ連れてゆくよ、先生にいひつけるよ、なぎとおつしやる方が多いのですから誠に困つたこゝですけれど、乳齒の重要性を認識させるためには随分苦心いたし、これが訓練には實に努力を要しました。

先づ子供を馴らせるべく、第一にお醫者ご診療臺への親しみを計りました。診療臺は幼稚園のエレベーター名づけ、その運轉士は水間先生、助手は園長先生さいふこゝにして、殆んど一二月位は、一人宛子供を診療臺にのせ、「今日は三越のエレベーターです、三階に御用はありますか」か、「帽子は何階ですよ」か、私共は汗を拭きく上下させて、容易に診療臺に親しみ乗れるやうにしました。そして一方保育時間にはお話にお遊戯に、お仕事、心を用ひて居りますうちに、漸次に全部の診査が出来ましたのです。そこでその結果を通知書になし、或は水間先生の運轉士に園長先生の助手なぎ、漫畫のパンフレットなぎ作つたり、父兄會を開いて講演や活動寫真なぎ、種々八方に

心を碎きました。

四、實施

幸ひにして割合早く父兄方の理解も得られ、子供は殆んご在園全部を治療するやうになりました。従つてはみがき訓練も追々實施され、お辨當のあごには必ず洗口場へ行くやうになりました。中にはいたづらの子供もあつてチューブをコップの中にしぼつて水を入れてかきまわし、牛乳だなぎ、遊んでゐる子もありますが、ごにかく全部が磨くやうになりました。殊に夜の歯みがきについては、父兄に嚴重に御話して極力獎勵いたし、歯みがき日誌は毎月保姆の手でいろ／＼な繪を工夫され、謄寫版で刷つて興味を深めるために幼児に色を塗らせるやうにしました。これは昭和三年五月以來、未だ一月も休みません。中には毎月さうしても持つてこない子供もありますが、何回でも根氣よく獎勵して、實に今日まで續けてゐるので御座います。入園の際には必ず父兄に齒科診療に就て諒解を求めると共に、齒刷牙子を學用品として持たせて居ります。お蔭で齒の幼稚園だなぎ、評判されました。

五、經過

次に診療狀況の經過について申上げてみたいと思ひますが、その結果は誠に反比例な不思議な現象を示してゐます。ごころは甚だ残念であります。これには大きな原因がありま

す。昭和三、四、五、六、七年度位までは、殆んごその九〇％は治療をいたしましたごころが、段々に減少するやうになりました。只今では在園の約半分強位で御座います。その大きな一ツの原因は、折角乳齒の大切なごころを説いても、全部に園にて治療をすゝめるごころの出来ない状態になりましたごころです。經費だなぎも始めは無料であつたし、中途から父兄の好意によつて實費を頂いて誠に容易に實施されてゐましたが、八、九年頃になつて、全くその理想を破られましたので御座います。齒科醫師會の規則さか齒科醫師法だなぎを全く少しも知らない私は、たゞ／＼子供本位に年々四月に入る新しい子供の父兄に對して、極力乳齒の大切なごころを説きまた抵抗力の弱い時代をさうしたら無事に過すであらうか、それには齒科の方ばかりでなく、百日咳やデフテリアだなぎの豫防注射を實行させるやら、これも始めは痛いごころですから心配しましたが、父兄の深い理解のごころに、これも容易に毎年實行されてゐますが、全くかうした氣持から、その上にもよりよき實行さ、よりよき父兄の理解ごころを望むまゝに、これらは訓練さして私一人の考へにて、いろ／＼の方法を取つたもので御座いますが、これ等が大きな原因の一つさになりました。以來最近では治療費も實費以上になりましたし、治療時期も豫防週間を設けて希望者のみさになりました。故に一學期間に三週間

や四週間の期間にては到底充分なことが出来なくなつたので御座います。勿論實費以上を申しましたも、これで收支が償ふわけはありませんが、従來の無料より有料となり、現在は齒科醫師會の標準料金を徴収してゐるのでございます。

六、希望

御話は前に戻りますが、實施上最も大切なことは、よき齒科醫を得ることであらうと思ひますが、私の子供を思ふ親心の満足は申しませうか、さうしても得られない事で御座います。勿論私は素人で御座いますから處置方法について申すではありませんが、何と申しませうか、素人の言葉で後始末がつかないのです。これは實施方法の大きな缺陷で、幼稚園經營上の困難といふ大問題になると思ひます。

病氣は都合のよい時ばかり出てこない。治療週間でないから一寸痛みを待つて貰ひたい、都合が悪いから病氣を明日に……、年中無休に少くも一週三日位の治療日を設けたい。感染根管などの家庭にて行き届かざるものなごは、一年も二年も幼稚園にゐるうちに、これらの治療が出来その他の治療も行つてゆきたい。豫防治療程度のものでなく徹底的にしたい。實に第二の國民保健のため大きな國家問題であると思ひます。

しかし扱つかうなりません、次ぎに來る問題は經費で御座います。私は幼稚園に入れば、齒みがきが全部に實施され

てゐるやうに、全部が診療を受ける。齒のみでなしに體のごとも、私共では百日咳の豫防注射、デフテリアの注射、檢便などもしてゐますが、すべて幼児の保健に對して全部出来るやうな方法を講じたい、かうした費用を保育料のうちも含めることを當然としてゆきたい、またかうした費用を出し得ない状態にある幼稚園では當局で何かよい御考を願ひたいことを切望して止まないであります。私は未熟乍ら止むに止まれぬ氣持より幼稚園に於ける齒科衛生施設に多大の關心を持つ一人であり、今後更には幼児期の保健衛生には一層献身したいと思つて居ります故、何分もよろしく御後援を御願ひ申上げる次第であります。終りにかうした發表の機會を御與へ下さいましたことを感謝致します。

(六頁より續く)

てをする場合が極めて多い。これを普通には「記憶的虚言」Erinnerungslüge と呼んでゐるが、この種の虚構も誤つた言ひ立てにいふに過ぎず、未だ本來の虚言といふことは出来ない。私達は子供に對して、明瞭に事物を見よ、正確に事態を知れ、そして自己に忠實たれと念じ、この方向に子供を導くべきで、これを虚言として責むべきでないことは言ふまでもない。